

# 情報連絡員総括表（2024年4月）

## — 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

### ・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化のいずれかを回答

$$DI値 = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ±0.0 (=横ばい) で推移  
※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

## 1. 概況報告 （回答者数 60名：回収率 100.0%）

○2024年4月のDI値は、前月との比較において、「売上高」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」の6指標が改善。その他3指標が悪化した。販売価格は3.3ポイント改善され、DI値は41.6ポイントを記録した。しかし、「在庫数量」は9.1ポイント悪化し、DI値はマイナス11.4を記録した。製造業から「販売価格交渉において値上げ交渉が取引先から受諾を得やすいが、業界全体での原材料不足が継続している」とコメントがあり、非製造業から「ドル高・円安の進行に伴い、輸入コストが増大している上に、2024年問題への対応による人件費の上昇等が暫く続いている。受注額が低い取引先の仕事は断り、契約解除を受け入れる必要がある。」と業界によって価格転嫁が進む業界と進まない業界との二極化が見られる。

○「製造業」では、前月との比較において「販売価格」「取引条件」「業界の景況」の6指標が改善され、その他3指標が悪化した。水産食品品業では、価格交渉が有利に運ぶことが多く、販売価格への転嫁が進んでいる反面、織物業では夏用浴衣生地の出荷に向け、円安による糸値の価格高騰が懸念されるといった業界特有のコメントが見られた。

○「非製造業」では、前月との比較において「取引条件」「収益状況」「資金繰り」の3指標が改善し、1指標が横ばい状態、その他4指標が悪化した。各種商品小売業では、市が主導したキャッシュレス決済利用者に対するポイント還元施策により、組合員全体での収益が改善された。その反面、燃料小売業では、燃料油激変緩和対策事業による補助金の継続的な投入の見通しが立たないことから、原油価格分の負担増を懸念するコメントが見られた。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2024年4月	1.7	-2.3	41.6	-3.3	-18.3	-15.0	-16.7	-16.6	-28.4
2024年3月	-8.4	-11.4	38.3	-6.7	-28.3	-23.4	-30.0	-8.3	-23.3
増減	10.1 ↑	9.1 ↓	3.3 ↑	3.4 ↑	10.0 ↑	8.4 ↑	13.3 ↑	-8.3 ↓	-5.1 ↓

## 2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減				
売上高	2024年4月	-10.0	26.7	ポイント	↑	13.3	-6.7	ポイント	↓	1.7	10.1	ポイント	↑
	2024年3月	-36.7				20.0				-8.4			
在庫数量	2024年4月	0.0	3.3	ポイント	↓	-7.1	21.5	ポイント	↓	-2.3	9.1	ポイント	↓
	2024年3月	-3.3				-28.6				-11.4			
販売価格	2024年4月	36.7	6.7	ポイント	↑	46.7	0.0	ポイント	-	41.6	3.3	ポイント	↑
	2024年3月	30.0				46.7				38.3			
取引条件	2024年4月	-3.3	-3.3	ポイント	↓	-3.4	9.9	ポイント	↑	-3.3	3.4	ポイント	↑
	2024年3月	0.0				-13.3				-6.7			
収益状況	2024年4月	-26.7	13.3	ポイント	↑	-10.0	6.6	ポイント	↑	-18.3	10.0	ポイント	↑
	2024年3月	-40.0				-16.6				-28.3			
資金繰り	2024年4月	-20.0	13.4	ポイント	↑	-10.0	3.4	ポイント	↑	-15.0	8.4	ポイント	↑
	2024年3月	-33.4				-13.4				-23.4			
設備操業度	2024年4月	-16.7	13.3	ポイント	↑	/				-16.7	13.3	ポイント	↑
	2024年3月	-30.0								-30.0			
雇用人員	2024年4月	-26.7	-3.4	ポイント	↓	-6.7	-13.4	ポイント	↓	-16.6	-8.3	ポイント	↓
	2024年3月	-23.3				6.7				-8.3			
業界の景況	2024年4月	-26.6	0.1	ポイント	↑	-30.0	-10.0	ポイント	↓	-28.4	-5.1	ポイント	↓
	2024年3月	-26.7				-20.0				-23.3			

## 今月の業種別回答件数

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況	
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化
製造業	食料品	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	繊維工業	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
	木材・木製品	1	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	0	3	0	2	0	3
	紙・紙加工品	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1
	印刷	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	窯業・土石製品	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	鉄鋼・金属工業	0	1	1	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1
	一般機器	0	3	0	0	0	0	0	1	0	3	0	2	0	2	0	2	0	2
	電気機器	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
	輸送用機器	3	2	1	0	3	0	2	0	3	2	0	1	2	1	1	1	2	2
その他の	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非製造業	卸売業	2	1	1	1	2	0	0	1	1	1	0	1	X					
	小売業	2	3	1	1	3	0	0	2	0	4	0	3						
	商店街	2	2	0	1	3	1	0	1	1	1	1	0						
	サービス業	3	0	X				2	0	2	0	0	0						
	建設業	1	3					2	0	0	1	0	3					0	1
	運輸業	3	0	3	0	2	0	2	0	1	0	1	0					1	0

### 3.情報連絡員からの報告

#### 製造業

水産食料品	・変わらず業界全体では原料の不足感が継続しているが、取引先との販売価格交渉に於いては値上げの受諾を得られやすい状況で有利に作用している。しかし原料確保が困難で製品自体を製造出来なければ「売る物が無い」状態となる。原料市場の状況が好転してくれる事を願うばかりである。
パン	・健康意識の高まりに伴い穀物や種子を含んだ多粒穀物パン、無添加の天然酵母を使用したパン、グルテンフリーのパンなど、健康に配慮したパンの需要が増えている。また 持続可能な製品や生産方法に対する関心の高まりから、地元の小規模なパン屋や地域の原材料を使用したパンへの需要が増えている。
織物業	・4月末まで、夏物浴衣生地の出荷で忙しい。5月から8月は例年閑散期になるが仮需を見込んだ生産が続くだろう。正絹物も順調に推移しているが、糸値が円安の為値上がりが続く。利益確保が、なかなか難しい状況である。
製材・木製品製造業	・住宅需要は鈍い。建築資材や建築における人件費の上昇から住宅自体の価格が上がっている。そのような流れの中で、住宅用国産木材のみが値を下げている。
生産用機械器具	・先行きが不透明のため不安を感じている。
電気機械器具	・白物家電の3月の業界統計では、出荷金額は3ヶ月連続のマイナスとなった。サービス消費へのシフト、物価高騰による節約志向の強まりが影響したと分析している。 ・大型冷蔵庫及び家庭用エアコンの販売が伸びない状況を受けて生産は前年割れが続いており、組合員は売り上げ減少に苦労している。
輸送用機械器具	・四輪車は好調だが、他のセグメントで生産調整も出ており、組合員によって受注部品による繁閑の差が出ている。 ・米国との金利差において異常な円安となっており、諸物価高騰の原因となっている。国内経済の安定的な成長を見通す状況下においては、簡単には金利を上げることが出来ないジレンマ状態であるとみており、打開策の早期議論を発展してほしい。 ・トヨタ自動車の主力車種の不具合対応(後部ドアの不具合)により5/31まで稼働停止となる。

## 非製造業

セメント卸売業	・袋セメント需要が縮小傾向にあるなか、2か月連続前年同月比を上回った。
鮮魚小売業	・売上高は前年より上回った。来客数は増えたが、消費者の節約志向のマインドにより客単価は減った。人件費・原材料等の負担増が続いているため収益面に関する不安も残ったままである。
燃料小売業	・円安・中東情勢の不安定化、原油の高止まり、人手不足など不安定要素ばかりである。燃料油激変緩和対策事業の再々延長により全油種の値上がりは抑えられているが、国からの補助金も税金を投入している以上、いつまで継続できるかわからないため、補助金が無くなった場合を想定して販売側、購入側双方が早めの備えが必要である。
野菜・果実小売業	・産地の変わり目で、2月3月の天候不順の影響もあり、多くの野菜が不足しており価格が高騰している。
各種商品小売業	・商店街は、再開発事業もあり今後数年で様変わりするだろう。
	・商品の価格があがっているため、消費者マインドに陰りがさしている。
	・4月1カ月間、市が主導した消費喚起のためのキャッシュレス決済ポイント還元(20%)事業が行われた。それにより各業種全体的に前年より良かった。
宿泊業	・組合員旅館の宿泊人員は、前年比109.7%と増加した。グループ客やインバウンドも徐々に増加している。
	・昨年5月の新型コロナウイルス5類移行後、徐々に国内の来遊客も戻りつつあり、本年4月は特にインバウンドが大幅に増加した。コロナ前の2019年4月比で宿泊人数では2割減であるが、各種エネルギーや食材の高騰による宿泊価格の見直しで、売り上げはほぼコロナ前に戻りつつある状況となった。
総合工事業	・新年度になり、残業規制の影響から材料の運送費と各業者の人件費が値上がりしている。新築工事の着工は極端に落ち込み、リフォーム・改修工事がほとんどである。
	・静岡県内の建設業は、仕事量が減少しているのが強く感じられる。大手企業の賃金UPの報道が多く流れるが、中小企業で対応ができる会社は少ないと思われる。これから様々な面でコストUPを強いられるが、対応に苦悩する日々が続くそう。
電気工事業	・全日電材連役員が全日電工連会長に、働き方改革を機に、「資材を建物の各部屋に届ける」、「土日でも配送する」、「ボールの配送料は無料」といった慣行を改めたいという申し入れを行ったところ、トップダウンで決める話ではないので、まず、各県で話し合い、その結果を要約して全国団体に協議を行うことになった。これを受け、4月22日、県工組と電設資材協組の理事が協議を行ったが、意見の集約には至らなかった。
職別工事業	・物価上昇が原因なのか、新規着工に対する契約が遅れ気味で、着工が停滞している状況。夏までこの状態が続くような心配だが、それ以降は一気に着工していく模様。人手は余力気味だが、契約単価は維持されている。今後の新規契約に関しても、値上げ交渉を活発に行っていきたい。
道路貨物運送業	・ドバイ原油は、中東・アジア情勢を背景とした需給逼迫懸念から1バレル85ドル台から90ドル台まで上昇している。また、「為替レート」においては、日銀のマイナス金利が解除され円高に向かうと思われたが、当面、日米の金利差が縮まらない思惑から1ドル155円を超えるドル高・円安へ進行し、原油輸入コストを押し上げている。加えて、石油元売り各社が足元の物価上昇、2024年問題への対応による人件費の上昇、船舶関連コストの上昇等を理由に4月より全油種物流コストを1リットルあたり+0.5円の改定とした。政府より石油元売り各社に支給されている「補助金」だが、現在1リットルあたり30円と大幅に膨らんでおり、支給期限であった4月末で打ち切る事もできず、再度延長となり国内市況価格は、補助金がありながらも高値状態が今後暫くは続くと思定される。
	・新規での人材が入ってこない為、運賃が低い取引先の仕事の依頼に対して断り、または運送契約の解除を入れなければならない状態にある。運送事業維持に関わる全てのものがこれからさらにインフレ化していくだろう。
	・人材不足で仕事が回らない上に、2024年問題で運行効率が落ちている。
道路旅客運送業	・コロナ前の平成31年3月との運送収入比で、令和5年3月が75.6%に対し令和6年3月が80.7%と5.1%改善したものの、2月の対前年同月比プラス9.5%と比べると回復傾向は鈍化している。平日午後から夜間の車両の動きが鈍い反面、特に週末夜間に旅客需要が増えて供給が不足気味との声も聞かれるため、旅客需要に見合った供給力確保に向けた人材確保が必要と思われる。

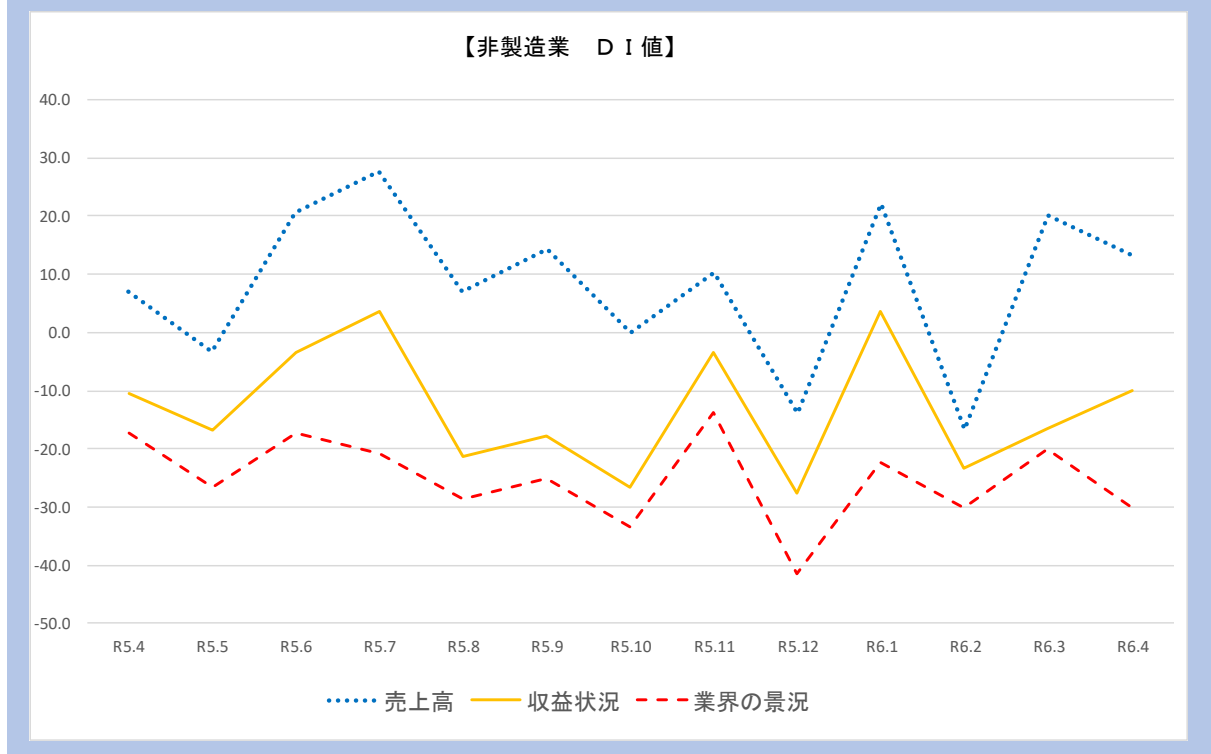
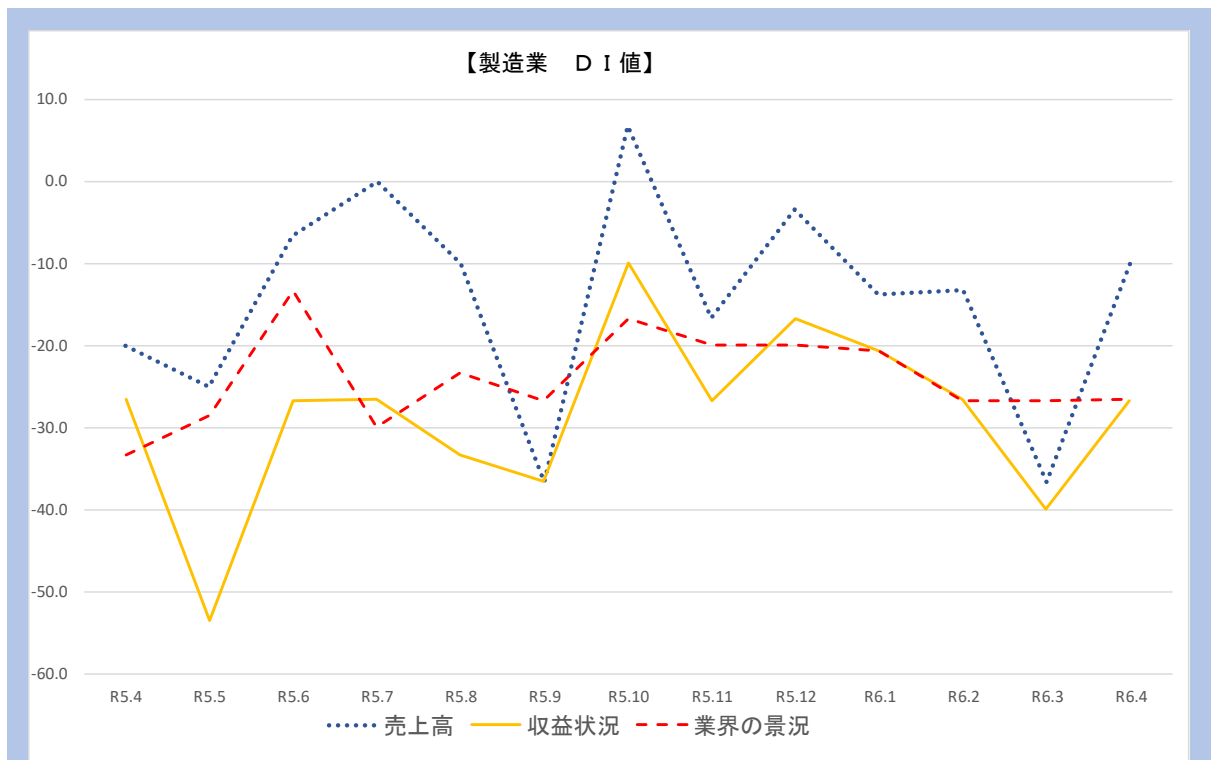
## 4. 主要三指標における DI 値の推移

■2023年4月期～2024年4月期までの推移

全体	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4
売上高	-6.8	-13.8	6.8	13.6	-1.7	-12.1	3.3	-3.4	-8.5	3.5	-15.0	-8.4	1.7
収益状況	-18.7	-34.5	-15.2	-11.9	-27.6	-27.6	-18.3	-15.3	-22.1	-9.0	-25.0	-28.3	-18.3
業界の景況	-25.4	-27.6	-15.2	-25.4	-25.9	-25.8	-25.0	-16.9	-30.5	-21.4	-28.3	-23.3	-28.4

製造業	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4
売上高	-20.0	-25.0	-6.7	0.0	-10.0	-36.7	6.7	-16.6	-3.4	-13.8	-13.3	-36.7	-10.0
収益状況	-26.6	-53.6	-26.7	-26.6	-33.3	-36.6	-10.0	-26.7	-16.7	-20.7	-26.6	-40.0	-26.7
業界の景況	-33.3	-28.5	-13.3	-30.0	-23.3	-26.7	-16.7	-20.0	-20.0	-20.7	-26.7	-26.7	-26.6

非製造業	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4
売上高	6.9	-3.3	20.7	27.6	7.1	14.3	0.0	10.4	-13.8	22.2	-16.6	20.0	13.3
収益状況	-10.4	-16.7	-3.5	3.5	-21.4	-17.9	-26.7	-3.4	-27.6	3.7	-23.3	-16.6	-10.0
業界の景況	-17.2	-26.7	-17.2	-20.7	-28.6	-25.0	-33.4	-13.8	-41.4	-22.2	-30.0	-20.0	-30.0



■ 2023年4月期～2024年4月期までの推移

売上高	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4
製造業	-20.0	-25.0	-6.7	0.0	-10.0	-36.7	6.7	-16.6	-3.4	-13.8	-13.3	-36.7	-10.0
非製造業	6.9	-3.3	20.7	27.6	7.1	14.3	0.0	10.4	-13.8	22.2	-16.6	20.0	13.3

収益状況	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4
製造業	-26.6	-53.6	-26.7	-26.6	-33.3	-36.6	-10.0	-26.7	-16.7	-20.7	-26.6	-40.0	-26.7
非製造業	-10.4	-16.7	-3.5	3.5	-21.4	-17.9	-26.7	-3.4	-27.6	3.7	-23.3	-16.6	-10.0

業界の景況	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4
製造業	-33.3	-28.5	-13.3	-30.0	-23.3	-26.7	-16.7	-20.0	-20.0	-20.7	-26.7	-26.7	-26.6
非製造業	-17.2	-26.7	-17.2	-20.7	-28.6	-25.0	-33.4	-13.8	-41.4	-22.2	-30.0	-20.0	-30.0

